

## 開校 150 年記念コラム（第 10 回）

夏を迎え、子どもたちが楽しみにしている水泳学習がスタートしました。水泳学習を始めるにあたり、5年生たちが掃除をし、プールの中も外もきれいになっています。水泳学習は、1学期末までの短い期間ですが、この時にしか学習できません。しっかり学んでほしいと思っています。

今回の「開校 150 年記念コラム」は、「学校プール設置」と「本土決戦～戦時中の暮らし②～」です。（どちらも赤江教育百年誌より抜粋して掲載しています）

### 「学校プール設置」

校門から玄関までの前庭は、昭和 30 年当時は砂原だった。そこに温室（昭和 43 年）、交通公園（昭和 46 年）などが整備されていった。

学校プールの設置は、昭和 47 年。前庭整備の総仕上げというべきもので、以前からプールの設置希望は強かった。ある夏はブルで飯梨川を掘ってもらい水がたまると喜んだも束の間、夜の豪雨で翌日は元通りだったという悲喜劇もあった。ビニールの簡易プールならば安上がりだと聞き、PTA 役員のがむしゃらな行動力がプール設置となった。

プールは大部分が市費によって設置されたが、建設に至るまでの関係者の努力は普々ならぬものがあつた。

※写真は、「松江・安来今昔写真帖」より

「昭和 40 年代後半から安来市内の各小学校で簡易水泳プールの設置が始まった。手前に見えるのは、その中でも初めて完成した赤江小学校のプール」と紹介されています。



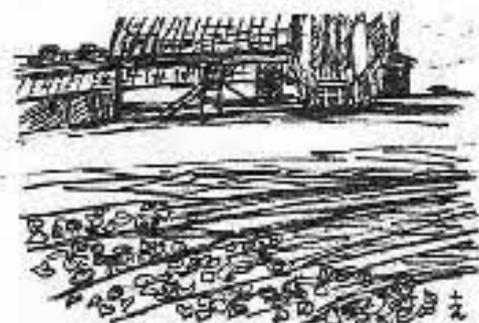
昭和 61 年

プールは、現在の場所にできるまでは、学校前の駐車場あたり（交流センター側）にありました。昨年度、「赤江小学校の思い出」を紹介した際、「最初のプールはブロック？セメントで、端っこのコースを泳ぐと血が出ました。（S63 卒）」、「入学したころは、まだブロックでできたプールに入った記憶があります。ブロックで怪我をしてよく血が出ている子どもがいました。（H1 卒）」などの思い出が寄せられました。昭和 63 年に現在のプールが完成し、ずいぶん快適に学習できるようになったと思います。

赤江小の歴史の中には、重く苦しい時代もありました。今回は、太平洋戦争中の学校の様子を紹介します。（「戦時中の暮らし」については、昨年度の 10 月号でも紹介しています。併せてお読みください。）

### 「本土決戦」（戦時中の暮らし②）

昭和 16 年 12 月 8 日、勇壮なる軍艦マーチが、人々の耳を驚かした。太平洋戦争（大東亜戦争）の始まりである。この時、戦線の詔勅が発布された。月の 8 日を大詔奉戴日と定められた。すでに正常の授業は困難となっていた。高学年はゲートルを着用、女子はモンペをはいた。そして、全員防空頭巾を背負っていた。校庭は掘り起こして畑となり、サツマイモ、カボチャを作った。スフ原料の桑皮はぎ、アルコール原料のドングリ拾い、応召家庭や戦没家庭への労力奉仕などが季節を追って行われた。17 年の沿革史には防空演習 5 回、桑籐剥皮 5 月下旬から 6 月初旬にかけて毎日、農場作業、勤労奉仕など 17 回の記録がある。



畑となった校庭 遠藤吉男氏筆

世界に目を向ければ、ウクライナをはじめ戦争などで命の危機にさらされている国や地域があり、この時も恐怖におびえて過ごす子どもがいます。本校では、毎年 6 年生が「平和学習」に取り組んでおり、修学旅行では、広島平和記念公園を見学したり、語り部さんからお話をお聞きしたりする予定です。